

令和7年度 第4回東郷町地域ケア推進会議

日時	令和7年11月28日(金) 午後2時から午後3時10分まで
場所	東郷町民会館3階 視聴覚室
出席者	<p>委員 ※敬称略、順不同</p> <p>制野 司 有識者（学校法人柳城学院）</p> <p>松浦 誠司 医師（東名古屋東郷町医師会）</p> <p>横井 昭博 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部）</p> <p>佐藤 裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会）</p> <p>福島 美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護ステーション連絡協議会）</p> <p>柳 ゆかり 理学療法士（東郷町リハビリテーション連絡協議会）</p> <p>磯村 達己 東郷町社会福祉協議会</p> <p>早川 孝志 東郷町北部地域包括支援センター</p> <p>荒川 和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑</p> <p>半田 清春 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>野々山 次夫 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>岡田 伸一 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑）</p> <p>朝倉 隆行 居宅サービス関係（メドック東郷）</p> <p>松山 陽二 居宅介護支援事業所（もみの木）</p> <p>小島 通範 住民代表（第1号被保険者）</p> <p>古橋 完美 瀬戸保健所 健康支援課</p> <p>森本 美香 暮らし健康部 成人保健推進室</p>
欠席者	<p>村井 良則 有識者（東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ）</p> <p>池田 寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし）</p> <p>海老原 由美 住民代表（第2号被保険者）</p>
傍聴者	2名
事務局	<p>福祉子ども部長</p> <p>高齢者支援課課長（進行）</p> <p>高齢者支援課の職員 4名</p>
議題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 第10期東郷町高齢者福祉計画策定に係る認知症支援者ヒアリングシート及びアンケート調査票について【資料1～5】</p> <p>(2) 「東郷町認知症施策推進計画」に係る意見聴取について【資料6及び参考資料1】</p>
配布資料	<p>会議次第</p> <p>資料1 東郷町認知症に関する団体・支援者ヒアリングシート</p> <p>資料2 東郷町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査</p> <p>資料3 東郷町在宅介護実態調査</p> <p>資料4 東郷町ケアマネジャー調査</p> <p>資料5 東郷町介護サービス事業者調査</p>

	資料6 「東郷町認知症施策推進計画」に係る意見聴取について 参考資料1 町の認知症の取り組み
--	---

1 あいさつ

2 議題

(1) 第10期東郷町高齢者福祉計画策定に係る認知症支援者ヒアリングシート及びアンケート調査票について

事務局	資料説明。資料1 資料2 資料3 資料4 資料5
委員長	前回、一任のご了承いただいたところについては、事務局と私で修正をおこなった。今回はどの程度の修正対応可能なのか。
事務局	内容の修正は難しく、字句の修正であれば対応可能である。
委員長	お気づきの点があれば、願います。 それでは、ご意見がないようであれば、次年度以降は今回の結果を見ながら修正していくことになると思うが、今回はこのアンケートで完成としたいと思う。承認いただけるか。
委員一同	異議なし
委員長	承認をいただいたので、それぞれの対象者に送付をお願いします。委員の皆様へは、次回の3月の会議でアンケート結果を報告する。 それでは議題2「東郷町認知症施策推進計画」に係る意見聴取について、事務局から説明をお願いします。

(2) 「東郷町認知症施策推進計画」に係る意見聴取について【資料6及び参考資料1】

事務局	資料説明。資料6及び参考資料1
委員長	まずは事務局からの説明について、質問をいただきたい。 再来年度の「第10期東郷町高齢者福祉計画」のスタートに向けて参考にしていく流れとなるので、資料6のア～ウについてのご意見いただきたい。全員に聞くため、お1人につき、1件、一言程度いただきたいと思う。
委員	ウのところについて、自分の母が認知症の症状が出ると地区の集まりに出なくなるので、なるべく誘うようにしていると言っていたので、認知症の症状が出ても地区の活動になるべく参加できるように、支援側も誘い続けられるような地区の理解があるといいと思う。まだ初期であれば周囲も見守りをするので、受け入れる体制が調うといいと思う。 高齢者支援課の方も一生懸命されているが、私も高齢者の担当時に紙芝居で認知症について伝えた経験があり、そのとき、子どもも素直に受け入れてくれて嬉しかったし、支援する側も元気をもらえ、やりがいを感じるので、子どもの頃から認知症についての教育が大事だと思っている。
委員	認知症で保健所に相談に来る人はいないが、症状が悪化して、手が出たりしたときに警察を通じて連絡が来ることがある。その頃になると家族も困っていることが多いので、早くに対応することが大事だと思う。私の立場だと予防に力を入れたいので、認知症の理解はもちろんのこと、認知症にならないための対策について、住民の皆様へ啓発をしていただき、早期に医療につなげることができれば

	いいと思う。
委員	社会福祉協議会ではボランティアセンターや地域サロンなど、関係団体との連携強化できるように応援・援助、リーダーシップをとっていき、認知症への支援をしていきたい。
委員	リハビリの現場でよく見るのが、本人が困っていないが、家族が困っているなどの思いの違いがあるので、目標設定は難しいと思う。例えば、本人は運転免許を維持したいからリハビリをやりたいが、家族は危ないから止めてほしかったり、逆に行動範囲が狭くなるので近場は運転させてあげたかったりなど、いろいろな思いがある。
委員	早めに訪問看護が入ると、閉じこもりになりにくいと感じる。閉ざしてからでは、なかなか入ることができず、所長の自分が入って、何ヶ月後にやっとスタッフが入れることになるので、対応が遅くなってしまう。地域ケア会議で提案しても、動きが遅く、地域の活動に行けなくなってしまった。包括も大変だと思うが、その後の評価とフォローが甘いケースが多い。
委員	アについて、本人の生きがいややりがいとして畑などをしたくても、周りが心配して止めてしまうケースがある。薬が飲めないから、フォローできないかという相談を受けるので、服薬に関するところが薬局として課題と感じている。 実際に生活している状況としては、老老介護や、仕事をしているので夜にしか薬を取りに来ることができないということで昼間はどのようにしているのかということがあった。 以前、関わった認知症の方がいて、旦那さんが倒れたために、施設に入ることになってしまったことが残念だった。それが事前に分かっていたら、何か対策ができたのではないかと感じた。
委員	専門が精神内科なので、日々の診療で相談を受けることが多い。早期なら効く薬もあるので、なるべく早めに受診していただきたいと思う。 東郷町の施策で、権利擁護のほうで日常生活自立支援事業があり、金銭管理が難しくなった方の通帳を預かるなどをしているが、契約者が東郷町は人口に比べて非常に少ないし、社協も人手不足で回っていなかったもので、東郷町の施策の中にも日常生活自立支援事業を入れて、啓発をおこなっていただきたい。
委員	日常生活自立支援事業の話があったが、人口比で利用者が少ないことは理解している。社協は申請の窓口になっているだけで、決めるのは県の審査会となり、だいたい年4、5件申請しているものの、落とされているのが現状である。あくまで小遣い程度のお金の出し入れや支払いの手伝いなどを補助するだけであり、生活保護の方は利用料が無料だが、それ以外だと利用するのにお金がかかるので、契約に結び付いていないのが現状である。制度の周知不足もあるので、社協として周知に努めないと感じている。
委員	私はその県の審査委員をしている。ほかの市町村に比べ、東郷町は申請数が少ないので、周知をしていただき、もっと申請していただきたい。
委員	利用は毎年、数件で推移している。
委員	先ほど言われた教育は大事と思っている。民生委員活動していても、小さい頃

	<p>から民生委員を知っているかどうかで、将来に民生委員になるかが全然違うことも明らかになってきている。学校教育でも運営協議会が始まり、子どもたちを社会に近く寄せるという活動をしており、未だにPTAの延長と思っている校長先生もいるが、取り巻く状況は変わってきている。</p> <p>認知症になるとしゃべらなくなり、認知症の家族も閉鎖的になってしまうので、我々の活動として、サロンなどを通じて、できるだけ引っ張り出して、その方々の情報を地域包括支援センターにあげて、対応を考えたりしている。昨夜も窃盗事件を起こした一人暮らしの高齢者がいたが、少し認知症の初期症状があるかもしてないので、今後、見守りを強化することとなった。やはり初期活動が一番大事だと感じている。</p> <p>また、後見活動についても、各施設がやっていることもあるが、東郷町は実際に後見人の人数は断トツで少ない。市民後見人は無報酬で動くので、お金がかからない。後見人活動がどのようなものかを、町や各機関が勉強していただき、進めていただきたい。ただ後見人の受け手が少なく、東郷町では実際にできるのは5人もいないので、もっと活動ができるように土壌をつくるのが大事であると思う。</p>
委員	今、委員がほとんど代弁してくれた。
委員	以前の会議で配布された令和6年度の地域課題のまとめの中に、「認知症の家族であることに抵抗感が」という具体的な課題があった。自分も認知症であるご本人から、認知症であることを知られたくないので、サービスを利用したくないという声も聞いたことがある。福祉に携わっている者としては、必要な支援を適切に受けもらうことが、生活の安定につながると考えているが、現実には認知症への理解が進んでいないために、認知症本人やその家族にこのような思いをさせている状況である。どんなに施策が整備されても、社規全体の認知症への理解が深まらなければ、十分に機能しないので、心理的ハードルを下げる取組が必要である。
委員	<p>自分のところは有料老人ホームであるが、最近の入居相談では、共働きのため、日中はデイサービスを利用するが、夜が大変なので入居したいという者が多い。共働きのために、地域サロンのような情報交換をする場に行く時間も、資料を見る時間もないという方が多い。一般の方は認知症を理解していない方が多く、独居の方は民生委員さんなどがサポートしているが、同居だと同居家族が理解していない場合があり、同居家族がいることで民生委員さんなども踏み込みづらいことから、認知症が進行してから相談されることが多い。</p> <p>東郷町として、企業に出向き、講演会などをおこない、働いている方へ認知症についての周知が必要だと思う。</p> <p>また子どもをはじめ、若い人にも認知症がどのようなものであるかレクチャーする機会が何回もあればと思う。</p>
委員	事務局と薬局を併設しており、昔からの利用者に認知症がかなり進んだ方がいて、暗いのに乳母車を引いてやって来る。危ないと何度も言っても聞いてくれないので、南部包括さんに連絡するとすぐに来てくれる。何度もあるので、ケアマ

	<p>ネさんの連絡先を聞いており、連絡するとすぐ動いてくれる。もし両方とも連絡がつかないときは、自分たちが家に連れていったりしている。地域で分かっている方は、地域で対応できていると思う。</p> <p>ケアマネ業務で困っているのは、独居の認知症の方には、必ずケアマネの連絡先を教えているのだが、時間関係なく、何でもかんでも連絡をしてくるので、そこは判断してスルーしているときもあり、それも課題だと思っている。</p>
委員	<p>今年、後期高齢者になり、免許更新で認知症検査を受けた。割と簡単な質問に答えるのだが、その試験で落ちるということは認知症が相当進んでいると感じた。75歳ではなく、65歳以上の高齢者の特定健診などの問診などで、早い段階での判断ができるのではないかと思った。</p> <p>9月の広報に「安心して認知症になれるまち」というスローガンがあったが、自分の周りでは反響があり、まるで認知症になることが目標のようにもとられた方がいた。</p>
委員長	<p>そのような意見もあったが、この委員会でも議論があつて、もう収束している。言葉の使い方はすごく大切だと感じた。</p>
委員	<p>「認知症になっても安心できるまち」などが普通かなと思った。</p>
委員	<p>包括支援センターとして、車の運転に関する相談が非常に多いと感じている。正直、「止めさせるのが包括ではないのか」などという人もいるので、包括にはそのような権限はないという話をすることもある。人間、行動の自由を制限されてしまうと嫌な思いをするし、特に男性であると運転できないと人として認められていないと感じる人もいる。</p> <p>包括の人間が行くと拒否される方もいて、20年前は社協の車が来てもらったら困るや、ヘルパーさんはヘルパーと分からない格好で来るようにと言われることなどが多かったが、今は減ってきたので、地域の理解が進んだのではないかと思っている。1年がかりでやっと職員と話をしてくれるようになった方もいて、最初、困り事などはないと言っていたが、聞いていると相談事が出てくる。昨日も伺ったが、家の中に上げてもらえず、車の中で話をした。そのような感じで、やっと話を聞けるようになったが、その親族の人からは「対応が遅い」と言われている。ただ、それまで病院に掛かれていなかったのが、親族の方が付き添いで、健診ついでにお医者さんに行かれたと聞いた。スピード感という意味では難しいが、強引に押しかけて拒否されることが絶対に駄目なことなので、多少時間がかかっても支援している方が心を閉ざさないようにしていきたい。</p> <p>参考資料の裏面に「認知症ケアパス」があるが、これは認知症の方やその家族の方に支援の流れを分かりやすく説明した冊子となっている。ほかの市町のケアパスを見る機会があり、東郷町は立派な冊子で、1ページ目から家族向けだが、その市町ではA4の裏表1枚で、表は「認知症カフェはこんなに楽しいよ」というように本人向けに作っていて、家族向けは裏面に説明していたので、参考になった。</p>
委員	<p>地域包括支援センターは認知症の理解を広めるために、認知症カフェやサポーター養成講座をやっている。</p>

	<p>教育に関しては、南部包括は 12 月 2 日の春木中向けの認知症キッズサポーター養成講座の特訓中である。</p> <p>最近、ケアラーの支援には家族支援がないと気づいた。介護保険法も本人のことしか書かれていない。ケアラーの支援は、虐待のおそれがあるときにはじめて家族のために動ける。家族の視点が足りなかったと反省している。</p>
委員長	<p>事務負担や免許の問題、ケアラーの問題などが出てきたが、この辺りについて、ご意見があればお願いします。</p>
委員	<p>免許のことは本当に問題で、どのように進めていったらいいのか分からないので、アドバイスが欲しい。</p> <p>家族が理解されていないので、認定調査に家族が同席しても、ケアマネと視点がずれており、現実が見えていない。そこをどうしたらいいかで、いつも躓いている。周りが応援してくれる方がいて、とても心強いと感じた。こつこつと重ねていったことの結果が出ていると思うので、これからも重ねていくことが大事だと感じた。</p>
委員長	<p>認知症を支援する側の話があったが、ニュースで地域の方の支援のレベルがその人の幸せ度の違いだという話もあった。認知症になった人は不幸ではなく幸せにならないといけなく、その幸せの度合いは誰にどのような支え方をされているかであるので、今回、いろいろと意見が出て、その辺りの理解があるのは大変いいことだと思っている。</p> <p>大変、貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。認知症推進計画をインターネットで見ると、認知症ならないためにどうしたらいいかという予防観点から動いているところもある。そのための啓発や知識の普及など進んでいるところもある。東郷町のものを見てみると、孤立をさせないことが一つテーマとなっており、そのための設備の拡充や体制の充実化は必要だと思う。専門家の確保も必要であり、財源ということを考えたら公助、共助、自助の観点から見る必要があると思う。これからいろいろと意見をいただきながら、事務局と一緒に計画に落とし込んでいきたいと思う。</p> <p>全体を通して何か意見はあるか。</p> <p>ないようなら、本日の議題は終了とする。進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>次回の地域ケア推進会議は、令和 8 年 3 月 26 日（木）14 時に町民会館 2 階の大会議室にて開催を予定している。また日にちが近づいたら、改めて、開催案内をお送りするので、よろしくをお願いします。</p> <p>以上をもって、令和 7 年度第 4 回東郷町地域ケア推進会議を終了する。長時間にわたりご審議いただき、感謝申し上げます。</p>

以上